

今、いちばん気になる統計は？

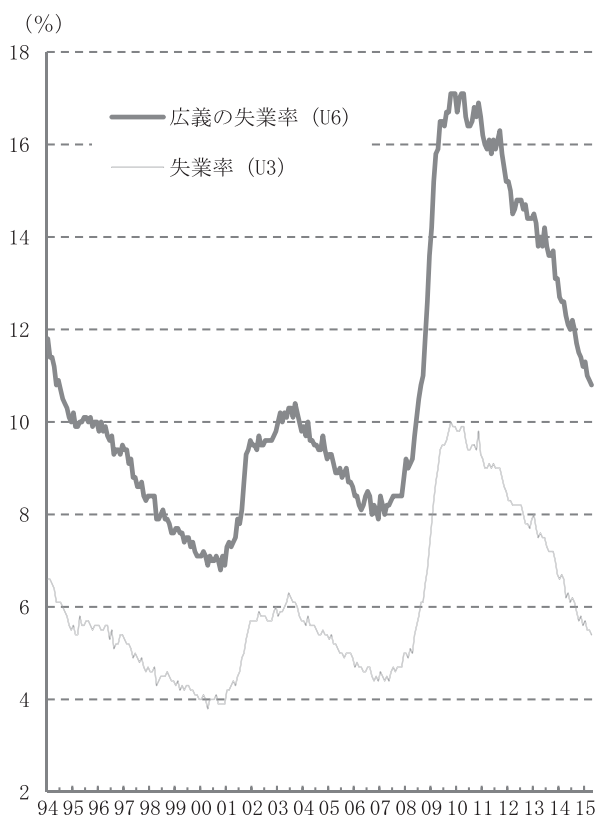
「米国の広義失業率(U6)」

普段、特段の断りが無い限り、米国の失業率と言えば、それはU3失業率というものを指す。実は、失業率にはU1～U6まで6段階の尺度があり、U6に近づくほど“失業者”の解釈が拡大する。U6は、通常の失業者数に、①正規雇用を探しているがパートタイムで働いている人や、②過去1年間に求職活動を行った人を失業者として加えている。つまり、U3失業率よりもU6失業率の方が高い数値になる。

失業率(U3)は速いペースで低下し15年5月に5.5%と過去の景気拡大局面と同程度にある。それにもかかわらず、平均時給の上昇ペースが加速しなかったことから、雇用の質に注目が集まり、最も広義の失業率であるU6の重要性が増した。U6は5月で10.8%と前回ピークの10.4%を依然上回っている。FRBも賃金上昇に繋がる雇用の質の改善を重視しており、金融政策を占ううえで、注目すべき統計である。

(経済調査部 桂畑 誠治)

資料 米国失業率



(出所)米労働省データ

編集後記

このところ企業業績は好調だ。法人企業統計によれば四半期ベースでは2012年1Qから13期連続で前年比経常増益、経常利益額をみても季節調整値後方4Q移動平均で過去最高額、経常利益率も1991年、2006年、2007年という過去の好調時を凌駕するレベルを達成している。

一方で家計、消費を取り巻く環境には厳しいものがある。またマクロ経済的には少子高齢化、地方の問題、社会保障負担、財政健全化と簡単には答えの出ない課題が多く残り将来に対してそう楽観的にはなれないのも事実。企業も足元の業績は好調なもの収益対比での設備投資に積極性は見られず、全体としては攻めの姿勢も今ひとつだ。

今は企業収益とマクロ経済がアンバランスだと感じる。以前は企業収益を起点に経済の好循環が進んだ。企業収益を考えるともっと経済全体が明るくなっていてもいいと思うのだが。今の日本では課題が複雑に絡み合い好循環のスイッチが入りにくくなっているのだろうか。それとも電子機器にありがちなように直接は関係なさそうな複数キーの同時押しでないとスイッチが入らないのだろうか。(H.S)

○第一生命経済研レポートに関するご意見・ご要望は、keizai@dlri.dai-ichi-life.co.jpまでお寄せ下さい。

○本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。